

(様式2)

令和7年10月20日

高松市教育委員会
保健体育課長 殿

学校名 高松市立木太南小学校

公印
省略

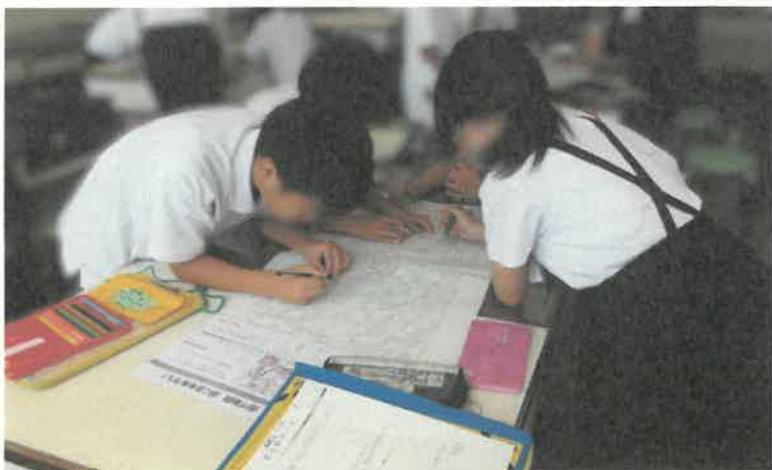
校長名 山崎 真紀子

令和7年度 高松市防災教育講師派遣事業報告書

次のとおり、事業を実施したので、報告します。

学校の名称	高松市立木太南小学校
派遣内容	逃げ地図作り (損保ジャパン)
日時	令和7年9月30日(火) 9:15 ~ 12:00
場所	木太南小学校 (家庭科室)
対象者 参加人数	児童数 92名 クラス数 3クラス 教職員 3名 その他 0名
内容・日程等	～内容～ ①大雨や地震に伴う災害発生時(浸水被害)の避難場所や安全な場所と危険な場所を確認する。 ②安全な場所に避難するまでにかかる時間を地図上に色分けして表す。 ③完成した地図を見て活動の振り返りを行う。 ～日程～ 9:15~10:00 2組 10:20~11:05 3組 11:15~12:00 1組
取組における成果	○損保ジャパンから地図の提供があり、グループ学習を円滑に進めることができた。 ○地図上で大雨や津波に伴う浸水被害を想定し、危険な場所を知ることができた。 ○木太町の特徴を知った上で、避難に要する時間を知ることができた。 ○避難する際の具体的な経路、最適な経路を考えるきっかけになり、総合的な学習の新たな課題が見つかった。
今後の課題	○実物で色分けの仕方を示したり、動画などで作業の進め方を確認したりできるとよい。 ○地図作りを通して気付いたことを交流する時間がもう少しあればよかった。

～授業の様子～



～作成した逃げ地図～



名前() まとめシート②

5 班

① 活動を通して気になったこと・気づいたこと、3つ!

- (1) 意外とひなん場所が少なかった
- (2) 木太東口えきの近くはひなん場所からとおかった
- (3) 細い道が少なかった

② より安全な避難ができるようになるために

(1)一人ひとりができること、(2)みんなのできること

(1)一人ひとりができること (例:おうちで話をしてみる)

・ ひなん場所を確にんしておく

・ ハザードマップで自分の家を確にんしておく 安全な通道

・ ひなん場所に行くまでの通道を確にんする ← どうか

(2)みんなのできること (例:避難場所がわかるようにかん板をつくる。)

・ みんなに安全な場所(ひなん場所)、きけんな場

X所について知らせる

にげ地図づくりでは、土地図を通して、きけんな場所や、安全な場所が分かって、家族とひなん経路も正確にしようと思えました。友達ともひなん経路を共有して、どこのひなん場所に集合するかも決めて、実際にひなん経路を歩いてここは行き上まりじ、だりかを正確にしようと思えました。そしてハザードマップも正確にして、家族の人と話し合おうと思えました。

にげ地図づくりでは、友達と協力して、ここはひなん所がないから危険だな、ここはひなん所が近いから安全だなと考えることができました。そして、意外にもひなん所が少ないと学ぶこともできました。また黒えんぴつでぬたところがとても多くてびっくりしました。けれど高れい者でも通れるところをあたので少し安心しました。まよぬシートでも1人1人ができること、みんなのでできることができ、いっかそれを実行したいなあと思えました。

にげ地図づくりでは、4番の地図にはひなん所がひとつもなく危険だと思っただけれど、意外とわき道が多く、近道をよく知っていれば安全区域に入ることができると思っただ。高速道路の下は安全だと思っただけれど、老きゅう化している高速道路はくずれてきたらすごく危ないので危険だと思っただ。いっか少し視点を變えて、その時のことを考えた上で災害の備えを家でしたい。